

～都内のフィルムコミッション・自治体担当者 & 施設管理者のための～

新型コロナ感染症拡散防止対策【With COVID-19】ロケ対応マニュアル

東京ロケーションボックス

1. はじめに

「撮影中の俳優の感染が判明し使われていた都内撮影所が一時封鎖」「TV ドラマ収録休止」等の報道もあります。制作担当者が万全な感染抑止策を講じたとしても、映画・ドラマ等の制作業務がいわゆる「3 密(密閉・密集・密接)」となりがちな環境であり、また、「無症状の感染者」によるクラスター発生リスクについては、運頼みともいえます。

どこで誰が感染するかわからない現状においては、もはや制作担当者頼みの現場対応は限界であり、制作会社も「人命尊重」と「事業継続」の選択に関わる重大な方針転換が必要となる状況になっています。

先ごろ「業種ごとの感染拡大予防ガイドライン一覧」(※資料 I) に発表された、日本映画製作者連盟(映連)、ジャパンフィルムコミッション(JFC)、日本民間放送連盟(民放連)、NHK 等を参考に、この状況に対応する東京のフィルムコミッションの手引きとするため、新型コロナ感染症拡散防止対策【With COVID-19】ロケ対応マニュアルを作成しました。

なお、細部に関しては、状況の変化に伴い、変更の可能性がある事をご了承ください。

2. 現状認識

緊急事態宣言が第一段階緩和された現在、全国的に COVID-19 も終息に向かっているかに思えますが、一方で、感染第二波に見舞われ、再度の自粛生活を余儀なくされる地域も出るなど、今後経済活動が段階的に再開されれば、ほぼ間違いなく再び感染者は増えるだろうと思われます。報道されているように、ワクチンや集団免疫等による終息に向けては、かなりの長年にわたる共存共生期間を覚悟する必要があります。

そんな中、東京ロケーションボックスでは、その間あるいは、その後の映像制作のフィルムコミッションとしての支援業務の実施継続について、感染状況に応じた対応を検討しています。

3. 感染防止のための基本的な考え方

F C (フィルムコミッション：以下 FC とする) は映像制作者と、作品のスタッフ・キャストが適切な新型コロナウイルス感染防止対策が講じられた環境で撮影が実施されるようチェックリスト等で確認した上で、ロケ撮影が可能なかを調整する。

(1) 【FC として守るべきもの】

- 地域住民、施設管理者、地域医療、FC スタッフ、制作スタッフ・キャストの健康と安全と生活
- FC 活動と映像制作の地位と正当性

(2) 【想定されるリスク】

- 制作スタッフ、施設立会者、FC スタッフ、その他関係者の感染
- クラスター発生によるロケ地・スタジオ・宿泊・支度場所・地域医療等への負担と保障(免責事項含)
- 受け入れ側に起因する感染発生による撮影中止時の保障(免責事項含む)
- 感染したスタッフや作品さらに FC に対する「プロダクション内」や「地域」「公衆」によるハラスメント

4. FCのためのマニュアル

※ （参考）都内各区市町村の自治体の方針によって条件が異なるため、映像制作者がロケ撮影に入る際には、各FCや自治体、ロケ地の管理者が設定している条件に沿って行うものとする。

以下の4項目は、ロケ撮影の実施あたり、地域住民（社会）の理解を得るために最低限必要なことです。

事前に制作者との合意（≒覚書等）が得られなければ、撮影支援を断ることもあります。

（1）FCと地域による感染拡大予防対策の徹底

FCスタッフを守ると同時にFCおよび地域が感染源とならないために、撮影に伴う感染リスクと予防対策を地域内に周知し、来たるロケ撮影に備える。

FC及び施設の立会スタッフの健康観察記録や検温表（※資料Ⅲ）などの携帯（必要に応じて提出）、撮影スタッフに準じた防護用品装備など。

（2）感染予防対策専任スタッフ（「衛生管理者」「衛生部」等）の配備要請

既存の制作部体制だけでは担いきれず、同じくFCスタッフが担うにはリスクが高いことを鑑み、「衛生管理者」※1、「衛生部」※2が映像制作業界で標準化されることを前提としている。前提がない場合は、制作会社と協議し、次善の策を取るよう要請する。

※1. 労働安全衛生法において、労働条件、労働環境の衛生的改善と疾病の予防処置等を担当し、事業場の衛生全般の管理をする者と定められ、一定規模以上の事業場については選任が義務付けられています。世界的な感染リスク下でのロケーションにあたっては、これに準じて、ロケーション等の進行管理に権限を持った、衛生管理に関する資格あるいは知識を持った「衛生管理者」が、プロダクション全体の感染予防対策を指導、管理します。

※2. 理想的には、既存の「制作部」とは別の「感染予防」専門チームを編成し、撮影・照明・録音・美術・ヘアメイク・衣裳・スタジオ等、業務ごとにスタッフの健康管理と消毒等感染予防の周知徹底を行うようにします。感染予防に関しては、専任スタッフ等の人員増は不可避と考えます。

（3）制作者に感染予防対策実施プランの提出を求める

撮影相談と同時に、地域や施設ごとの感染予防指針ガイドラインを加味した「ロケ撮影における新型コロナウイルス感染予防対策チェックリスト」（※資料Ⅱ：文化庁・経産省・映連・日映協・日本監督協会公認「JFCガイドライン」）に基づき、感染予防対策実施マニュアルを検証する。

このマニュアルは、映連、民放連、JAC、JFC、NHKほか、TV局、映画会社、制作プロダクション個別のガイドラインをもとに転用または加筆修正して作成され、ロケーションでの全撮影関係者の行動指針となる。なお、資料Ⅱ「ロケ撮影における新型コロナウイルス感染予防対策チェックリスト」を代用することもできる。

以下は記載内容の要件。

① プロデューサー（または制作会社代表）の署名

- ・対策プランは、当該プロダクション・ロケーションにおいて全関係者に周知されていなければならない。
- ・対策プランの提出にあたっては、個人情報取り扱いに関する全スタッフの了承と、プロデューサーの任命した「衛生管理者」の確認がなければならない。
- ・上記2点の確認と承諾の証として、プロデューサー（または制作会社代表）の署名を求める。

② 全編成スタッフの健康観察報告

- ・スタッフ健康状態のチェックと報告（2 週間以内の海外渡航 2 週間の検温・PCR 検査や抗体検査の実施証明等）
- ・スタッフとその同居者に感染者またはその疑いのある者がいないことの証明・宣言

③ 撮影現場での感染予防のための対応・処置内容

- ・資料Ⅱ、資料Ⅳを参照。また、撮影で使用する施設ごとに「事業者向け東京都感染拡大防止ガイドライン（※）」に沿った感染対策を施す。

※【事業者向け東京都感染拡大防止ガイドライン】

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1007942/1007968.html>

中止や延期する場合の判断基準・対処方針を明記

- ・感染発生またはその疑いがある、感染拡大による国・自治体からの自粛要請など、不可避な外的要因による中止・延期リスクへの対処方針（休止期間・免責等）

(4)医療機関・保健所・発熱外来等の地域医療との連携

ロケ現場での感染者発生時対応を想定し、保健所・発熱外来等との連絡が敏速にとれるよう保健所等の連絡先の把握等に努める。感染者もしくは、その疑いのある者が出た場合は、保健所及び関係機関の指導に従う。

以上

【参考資料 I】関連ガイドライン一覧

※「事業者向け東京都感染拡大防止ガイドライン」

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1007942/1007968.html>

【東京都総合防災部ロードマップ等の URL】

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/index.html>

※施設別の休業要請の緩和のステップ（施設別）の記載等あり

【東京ロケーションボックス HP 業界団体のガイドライン】

<https://www.locationbox.metro.tokyo.lg.jp/topics/detail.html?itemid=103&dispmid=702>

.....（以上、東京都公表ガイドラインより）

内閣官房「業種ごとの感染拡大予防ガイドライン」

https://corona.go.jp/prevention/pdf/guideline_20200514.pdf

一般社団法人 日本映画製作者連盟

<http://www.eiren.org/>

一般社団法人 日本民間放送連盟

<https://www.j-ba.or.jp/category/broadcasting/jba103834>

日本放送協会

<https://www.nhk.or.jp/info/otherpress/pdf/2020/20200514.pdf>

一般社団法人 衛星放送協会

<https://www.eiseihoso.org/>

一般社団法人 日本コミュニティ放送協会

<https://www.jcba.jp/community/index.html>

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

<https://www.catv-jcta.jp/topics/detail/1760>

特定非営利活動法人 ジャパンフィルムコミッション

<https://www.japanfc.org/>

.....（以上、内閣官房公表ガイドラインより）

一般社団法人 日本アド・コンテンツ制作協会

https://www.jac-cm.or.jp/wp-content/uploads/2020/07/jac_news20200515.pdf

協同組合 日本映画製作者協会

[https://c787d4ba-2c69-4317-9a34-](https://c787d4ba-2c69-4317-9a34-b9105049fdbc.filesusr.com/ugd/37f348_caca8d161bc14228be454beb1080d508.pdf)

[b9105049fdbc.filesusr.com/ugd/37f348_caca8d161bc14228be454beb1080d508.pdf](https://c787d4ba-2c69-4317-9a34-b9105049fdbc.filesusr.com/ugd/37f348_caca8d161bc14228be454beb1080d508.pdf)

[https://c787d4ba-2c69-4317-9a34-](https://c787d4ba-2c69-4317-9a34-b9105049fdbc.filesusr.com/ugd/37f348_614728b6907b46b990ae5a34cfcd57a7.pdf)

[b9105049fdbc.filesusr.com/ugd/37f348_614728b6907b46b990ae5a34cfcd57a7.pdf](https://c787d4ba-2c69-4317-9a34-b9105049fdbc.filesusr.com/ugd/37f348_614728b6907b46b990ae5a34cfcd57a7.pdf)

作 品 名：

所属会社名および所属先住所：

撮影現場責任者および連絡先：

作品名 _____ のロケ撮影に際し、以下の新型コロナウイルス感染予防対策と、関係各所のガイドラインを理解した上、責任をもって行うことを報告する。また、以下のすべての内容に付き確認が取れなければ、撮影支援が受けられない場合があることを承諾する。

1. 事前対策

- ☐ 「ロケ撮影支援における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」の内容を確認した。
- ☐ 感染対策のための消毒などを行う専属の衛生管理者（係）を撮影現場に設置する。
- ☐ 撮影関係者および出演者に、発熱・咳・下痢等の症状がある者、新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触がある者、同居家族や身近な知人の感染が疑われる者、過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航並びに当該国・地域の在住者との濃厚接触がある者はいない。
- ☐ ロケ撮影にかかわる全撮影関係者の撮影 2 週間前までの行動記録を確認・管理している。
- ☐ 撮影関係者および出演者やエキストラ等が撮影期間に必要なマスク、手袋、消毒液等の用意ができています。
- ☐ 撮影現場では毎日、検温ができる体制になっている。
- ☐ 撮影現場責任者を明確にし、地域のフィルムコミッションや自治体、ロケ地管理者への連絡を済ませている。
- ☐ 撮影地において、撮影関係者に感染が疑われる場合の対処法や連絡先などの確認を済ませている。
- ☐ 厚生労働省および保健所が定める予防対策の確認を済ませている。

2. 撮影現場において

- ☐ 撮影現場では社会的距離の確保を徹底する。
- ☐ 撮影現場責任者はフィルムコミッションや自治体、ロケ地管理者と連絡を取りあう。
- ☐ マスク・必要に応じた使い捨て手袋などの着用やアルコールによる手指消毒を徹底する。
- ☐ 撮影関係者の体温チェックを徹底する。
- ☐ 撮影関係者の撮影中の行動確認を確認・管理する。
- ☐ ロケ地管理者が設定しているロケ現場の消毒が徹底されている。
- ☐ ロケセットや施設内など屋内においては、原則、自治体が定めるイベント開催の人数制限を守る。
- ☐ ロケ撮影への車両での移動は、1 台における乗車人数を最小限（社会的距離を取るなど感染防止策を取った対応）に抑え、必ず換気をしながら移動する。
- ☐ 宿泊を伴う場合は、一人一部屋（シングルの部屋）を確保している。
- ☐ 全ての食事はケータリング形式ではなく表面の汚染を防ぐ方法を用い、一個ずつパッキングされたものを提供する。
- ☐ 食事を扱う従事者は、食事の都度、事前に手指消毒や手洗いを済ませ、マスクと手袋を着用する。
- ☐ 清掃やゴミの廃棄を行う者は、マスクや手袋を着用し、終了後は手洗い、消毒を徹底する。
- ☐ ゴミは、衛生管理者（係）の下、撮影関係者が撮影地のルールに従い処分する。
- ☐ 撮影地でゴミを処理する際は、ごみ処理のガイドラインに沿って感染予防を行って処理する。
- ☐ ロケ撮影の際、通行人、見学者が密にならないよう配慮を徹底する。
- ☐ 撮影終了後は、事前にロケ地管理者と協議した上で、映像製作者の責任において、撮影現場の消毒、清掃を行う。

3. エキストラについて

- ☐ エキストラの募集は最小限に留め、エキストラの連絡先や身元の管理は行う。
- ☐ エキストラの健康状態および行動履歴の確認は取れている。

4. 感染が疑われた場合の対処

- ☐ 感染が疑われる者がした場合、直ちに隔離して共有した物などを消毒するとともに、必ず FC と居住地の保健所へ連絡すること。
- ☐ 感染が確認された場合、直ちに撮影を中断し、保健所等の指導に従う。

【資料Ⅲ】 検温表（サンプル）

月 名前：

[illegible]

【資料Ⅳ】 映像制作者による【ロケーションにあたっての業務別感染予防対策チェックリスト】（参考）

カテゴリー	チェック	予防対策
全 般	➤	➤ 体調が悪いスタッフは出勤させない。
	➤	➤ 必須防護用品の携行（フェイスシールド＝監督・ヘアメイク、ゴーグル＝ヘアメイク・制作部、エプロン＝ヘアメイク・衣裳・制作部、マスク＝全員、使い捨て手袋＝全員、非接触型体温計、など）
	➤	➤ 防護用品は破れたりしていないかを確認し、破れている場合は速やかに交換する。
		➤ ゴミになった防護用品は他者に感染するリスクのないよう管理する。
	➤	➤ 可能な限り、各スタッフはマスク、作業用手袋を持参するよう促す。
	➤	➤ スタッフ全員が頻繁に手洗いを実践する。（水やハンドソープ、石鹸がない場合は、アルコール含有量 60 パーセント以上のサニタイザーを使用する）
	➤	➤ セキやくしゃみなどの際は口を覆い、ティッシュを使用し、使用後はきちんとゴミ箱に捨てる。
	➤	➤ 撮影、準備中にはできるかぎり人と人との間に 2 メートル以上の距離をとる。
	➤	➤ PC、携帯電話、文房具等は他人と共用しない。
	➤	➤ 各スタッフに、こまめに身の回りのアルコールによる拭き掃除を実践するように促す。
健康管理	➤	➤ 全員が現場に入る前に所定の検査※を、可能な限り行うよう求める。 ① 抗原検査や②抗体検査：①15～20 分以内に結果が得られるが、地域の医療体制（ロケ地およびプロダクション所在地）に影響を与えることなく検査キットを入手できることを前提とする。 ②可能なら、すでにウイルスに感染している場合に免疫を検出する「抗体検査」を実施する。
	➤	➤ 医療専門家（医師・看護師等）もしくは衛生部・防疫部が健康アンケート、体温チェック、衛生指導（咳エチケット）を毎朝行う。
	➤	➤ 体温が 1℃以上平熱より高いスタッフは直ちに作業を中止し、医師の診察を受ける。
スケジュール	➤	➤ 今までよりも作業に期間（時間）がかかることを認識する。
	➤	➤ 撮影時間を少なくするように努力する。
	➤	➤ 各部署の入り時間を分ける。
	➤	➤ セット準備等は美術部と照明部とで時間帯を分けるなど密集しないよう配慮する。
	➤	➤ 前日建て込み、前日照明作業を心がける。
機材	➤	➤ 手袋を使用し、手袋もこまめに取り換える。
	➤	➤ 休憩時間中などに、機材のアルコール消毒をおこなう。
	➤	➤ 複数のスタッフが同じ機材に触れないようにする。必要であれば機材の数を増やす。
	➤	➤ 誰がどの機材を取り扱うかを取り決め、同じ人が同じ機材に触れるようにする。
食事	➤	➤ 「ビュッフェ形式」での食事提供は禁止。一個ずつパッキングされたものを提供する。スタッフ密度を下げるため、食事の休憩時間をパートごとに時間差で取るなどの工夫をする。

スタッフ	➤	➤ 各スタッフの役割を調査分析して、現場の人数を必要不可欠な要員のみに制限。
	➤	➤ 全ての撮影スタッフは、チーム編成時に健康状態、旅行歴、新型コロナ感染者との接触の有無を申告し、書類に署名をする。
	➤	➤ 感染予防のためにロケ現場を消毒する専任スタッフ（部署）を配置する。（「衛生部」「防疫部」等）
	➤	➤ 医療スタッフを配置するか、その指導を仰いで各パートの業務に応じた感染防止マニュアルを事前に作成し遵守する。
	➤	➤ 早めにロケハンをスケジュールする。
	➤	➤ 配布書類はメールにて配布する
	➤	➤ スタッフはできるだけ自車を使用する。
ロケハン	➤	➤ 移動車両は、常にアルコール消毒を徹底し、乗っている際は、こまめな換気、マスクを着用。できるだけ複数台を用意し、座席に余裕をもって座る。複数のスタッフが同じ機材に触れないようにする。
	➤	➤ ロケ地に付いたら、会話はできるだけ屋外でおこなう。
	➤	➤ 機材ベース、昼食場、機材置き場などの配置を考える時、できる限りスペースを取り、風通しを良くするように心がける。
ロケーション	➤	➤ 撮影現場に入る前に全てのスタッフは体温のチェックとアルコールによる手の消毒を行う。
	➤	➤ 撮影中の俳優以外のスタッフは、常にマスクを着用。
	➤	➤ 撮影中以外は、俳優もマスクを着用しなければならない。
	➤	➤ 不必要な人や、一般の人々に撮影場所からの距離を保つように求める。
	➤	➤ スタジオや屋内、一般の立ち入りが制限されている場所など公共ではない場所でのロケーション撮影についても、公衆衛生の保護のためにも、前述の予防措置を講じる。
	➤	➤ 撮影現場への到着・現場入りに段階を設け、スタッフ密集を防ぐ。
	➤	➤ ロケバスをはじめとしたロケ車両では、乗車するスタッフによって密集を作らないよう注意する。（極力、自車の利用を促す、ロケ車両を増やす、換気の徹底など）
	➤	➤ 車両部はロケ車両の内外のアルコール消毒を待機時間ごとに行う。
	➤	➤ 狭いスペース（20 平方 m 以下）での撮影の場合、撮影は最小スタッフに限る。 例）俳優、カメラオペレーター、フォーカス、録音技師 等 ※その他のスタッフはリモートビューイング等で対応
	➤	➤ 撮影前と撮影後に消毒が必要になるロケ施設がある。消毒液を使用する際は、ロケ施設を傷つけないようにする。
	➤	➤ 近隣に配慮し、可能な限りロケーション同意書に署名してもらう努力をする。
	➤	➤ ロケ地が使用できなくなった際のバックアップを用意する。
	➤	➤ ロケーションの所有者に、安全な待機場所を確保し、撮影中には出入りしてもらわないよう配慮する。

	➤	➤ 食事場には十分は広さを確保する。
	➤	➤ センサー感知式のハンドソープディスペンサーなどが望ましい。（ハンドドライヤーは NG）
	➤	➤ 水道がないロケ地でも、手洗い場を確保する。 ➤ 部外者が入らないよう注意する。その際、対応が、そんざいにならないよう注意する。
モニターエリア	➤	➤ ・モニターエリアは、できる限り屋外に設置する。
俳優控室 共有エリア	➤	➤ 可能であれば、すべての共有エリアとタレントのための控室は、屋外に設置。 ➤ 控室等の事前事後消毒、換気、個別占有スペース確保等を徹底する。
エキストラ	➤	➤ 地域のエキストラ招集はリスクが高いため、極力避ける。やむを得ない場合は、他のスタッフと同じ手順で検温、アルコールによる消毒、マスク・使い捨て手袋着用等を行う。
シーンの見直し	➤	➤ ソーシャル・ディスタンスが十分に保てないような群集シーンは、制作上伝染のリスクが高すぎると考えられるため、許可できない。例）ナイトクラブのシーン、教会の集会、政治的なデモ ※少人数のグループシーンは可能か ※ソーシャル・ディスタンスを保つことができれば、大人数の屋内外のシーンも可能か
ヘアメイク	➤	➤ 作業台は、各使用者で清掃し、最低 2 メートル以上離して使用する。
	➤	➤ メイク用品、道具等は俳優別に用意する。
	➤	➤ 現場でのメイク直しは極力行わない。
衣裳	➤	➤ スタyling補助は主要キャストに限定。スタylingの前後には、タレント、スタylist共に手洗い、アルコール消毒を実施。バックグラウンドのタレントは、可能な限り私服を着用し、自宅で着付ける。それが不可能な場合は、ソーシャル・ディスタンスを保つことができるような着替え設備を用意する。
PPM 美術打合せ	➤	➤ 撮影日での変更を減らすために、PPM（プリプロダクションミーティング）等は早めに行い、可能な限りの項目を決定する。
美術部	➤	➤ ロケ地にあるモノにはできるだけ触れないようにする。
	➤	➤ ロケ地の所有者に、できるだけ個人的なものは減らしてもらうようお願いする。
	➤	➤ 大道具・小道具は、1 日にピックアップする場所をできる限りまとめ、数を減らす。
	➤	➤ テックスカウト（監督・撮影・照明等で撮影当日の段取りを決めるためのスカウト）ですべて前日仕込み、後日バラシをできるだけ実践する。ロケ地の消毒も行うことに注意する。
	➤	➤ 前日仕込み、後日バラシをできるだけ実践する。ロケ地の消毒も行うことに注意する。
各部の トランシーバー	➤	➤ トランシーバーは撮影日前日に配布しておく。
	➤	➤ 各トランシーバーはビニル袋に入れて配布する。
	➤	➤ 別の人のトランシーバーは使用しない。
	➤	➤ 交換用バッテリーは充電前後に消毒し、ビニル袋に入れて保管する。